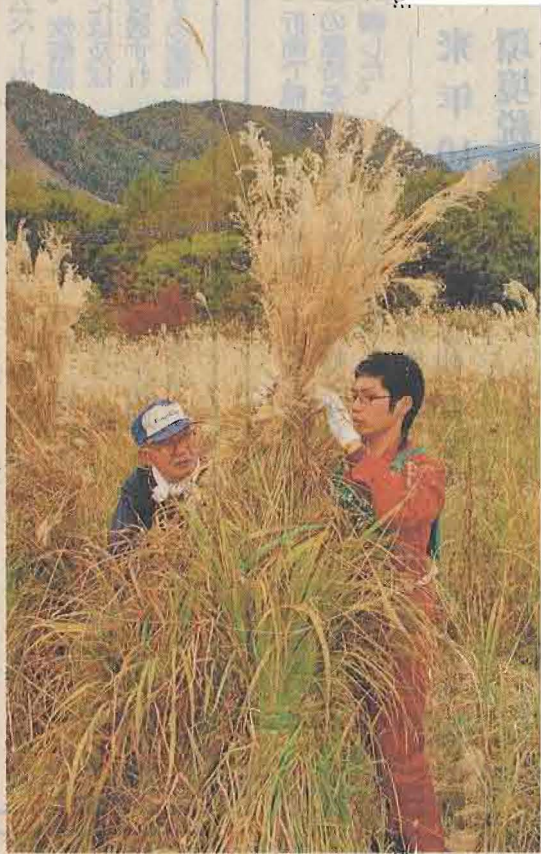


きぎずな 再び

⑥

新たな協同の息吹

群馬県みななかみ町藤原ふるさとの光景に心を痛めるとした原野が広がる。かつて源流域一帯には2000坪ものススキ原が右肩下がりで、宿泊客も



都市部の大学生⑧と一緒にススキを収穫する地元住民。草原の保全を担う新たな力に期待がかかる(群馬県みななかみ町で)

住民の思い 学生も共感

「昔は当たり前だった。えいっこ(助け合い)の精神を、活動を通じてもう一度、地域に根付かせたい」。塾の活動を支援する同地区の林親勇さん(73)は言う。「塾長を務める清水さん(73)は言う。「塾で完結する入会地か、もっと多くの人が関わり、新しいスタイルに発奮させていくつもりだ」。

今年のススキ刈りを行った10月下旬。塾のメンバーで早稲田大学4年の石原光訓さん(22)「活動を通じ、地元民がススキ原をいかに大切にしているかを痛感した。貴重な資源を次世代に残す手伝いを続けたい」と決意を話す。

現代版・入会地

群馬県みななかみ町

た。しかし、高齢化が進む同地区の住民の力だけでは足りない。そこで、

作戦だ。近隣には、住民のよりどころであるかやぶき屋の諏訪神社がある。刈り取ったススキは、文化財の修復を手掛ける建設会社に買い取ってもら

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

流域で「宝」次代に

メモ

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「ここは一面ススキ原

あった。地域住民が共有する入会地だ。しかし、その9割がスキー場などに姿を変えた。わずかに美しい源流域を取り戻す。塾では残されたススキ原を守るため、入り会いのルール復活を柱に据え

林野庁によると、地域住民が共同で林産資源を採取する「入会林野」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。

「入会地」の面積は現在、全国で57万坪。44年前の185万坪に比べ7割減った。国が1966年に入会林野近代化法を制定し、主体的な管理を促してきたが、現場では過疎・高齢化などを背景に、自力での保全管理が難しくなっている。